



Title	創刊の辞
Author(s)	諏訪, 正明
Relation	オホーツク文化形成期の諸問題 = Problems on the formative stage of the Okhotsk culture
Citation	北海道大学総合博物館研究報告, 1, i-i
Issue Date	2003-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/38394
Type	other
File Information	no1_pi.pdf



創刊の辞

大学博物館の存在，それは日本においては今も決して当たり前のことではない。本学ではすでに昭和38年に資料館設置の方針が決定され，その後も学内教官の努力は続いたが実現に至らずに経過した。近年，地球環境への関心が世界的に高まる中，日本においても生物多様性条約の受け入れ（平成5年）と環境基本計画の閣議決定（平成6年）がなされ，平成7年には学術審議会から「ユニヴァーシティ・ミュージアムの設置について（中間報告）」が出された。これを受け，各大学の動きが活発になり，本学でも平成8年に学術資料館（仮称）設置検討委員会のもとにユニヴァーシティ・ミュージアム専門委員会が設けられ，平成10年には博物館構想の概要が出された。国立大学の博物館はこの時までに，東京大学，京都大学，東北大学に設置されており，平成11年4月に北海道大学が続くこととなった。その後，名古屋大学，九州大学，鹿児島大学，大阪大学と相次いで設置されて今日に至っている。しかし，組織だけが先行し，活動の具体的展開の場である建物が伴っているところは少ない。北海道大学総合博物館も予定建物の一部分が改修されたのみで，苦しい活動が続いている。

大学・研究機関には，その歴史と地域性によって独自の学術標本が蓄積されている。札幌農学校として開校以来120余年の歴史を有する本学にも数々の特徴あるコレクションが収蔵されており，標本数は400万点以上と見積もられている。日本国内はもとより，開拓者精神をバックボーンにアジア各地にフィールドを求めた先達が多く，収集された標本は日本におけるそれぞれの学問分野の黎明期に大きく貢献した。近年は南北の極域を含む世界各地に研究対象地域は拡大しており，収集蓄積される標本は増加の一途を辿っている。総合博物館教官の調査研究も国内外で活発に行われており，主催する国際セミナーや国際シンポジウムも頻繁である。

大学の社会に対する説明責任がこれまで以上に求められている今日，「大学の公開装置」として大学博物館が果たすべき役割は重く大きい。博物館独自の教育研究はもとより，広く学内の教育研究の現状を発信することが求められている。その責任を果たす一形態として，「北海道大学総合博物館研究報告」が創刊される運びとなったことを喜ぶたい。

大学を取り巻く環境が激しく変動する中，様々な活動が評価の対象となっている。教官個人の研究業績についても然りであり，そのためインパクトファクターの高い雑誌への投稿が助長されている。これが研究の質の向上に大きく貢献している面も否めないが，その弊害も指摘されており，学問分野の特性を考慮した評価のあり方が今後検討さるべき課題でもある。一方でまた，組織の業績評価を考えるならば，その組織の出版物が斯界の高い評価を受けることも極めて重要である。英国の *Bulletin of The Natural History Museum* を始め，国内外にはそのような博物館報告が少なくない。北海道大学総合博物館も今，「研究報告1号」をお届けする。当館の日常活動を反映した国際的な出版物として継続発展させていきたいと念願している。期待される出版物でありたい。

北海道大学総合博物館館長

諏訪正明